



# 1. 会社概要

- 沿革 創業 1858年 設立 1949年
- 事業所 国内 13ヶ所  
海外 72ヶ国 121ヶ所
- 連結対象会社数 561社
- 従業員数 3,677名(グループ全体:約3万人)
- 資本金 2,627億円
- 売上高 95,549億円 (連結)
- 当期純利益 1,193億円 (連結)

(2007年3月末/4月初 現在)

# 2. 旧システムの概要

【本プロジェクト再構築対象】



### 3. 旧システムの問題点

- 高額な運用コスト
- 維持の困難さ

Copyright (C) 2007 Marubeni Corporation. All rights reserved.

**Marubeni**

### 4. 解決のための候補案

第1案 同業他社システム購入案

第2案 ホストリプレイス案

第3案 システム機能移行(コンバージョン)案

Copyright (C) 2007 Marubeni Corporation. All rights reserved.

**Marubeni**

## 4. 解決のための候補案

### 第1案 同業他社システム購入案

- 商社の財務業務をカバーできるような市販のパッケージが無い為、同業他社が利用しているシステムを購入し、利用できないかを検討した。

## 4. 解決のための候補案

### 第2案 ホストリプレース案

- 現行のプログラムには手を加えず、単にホスト機を財務基幹システム専用のものにリプレースする案について検討した。

## 4. 解決のための候補案

### 第3案 システム機能移行(コンバージョン)案

- 現行のプログラムを機械的に変換(コンバージョン)する方式について検討した。

## 4. 解決のための候補案

### 【財務基幹システム再構築案検討結果】

	コスト	財務ユーザー作業負荷	業務システム先進性	システム基盤発展性	その他
同業他社システム購入案	×	△	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社システムへの適合に大きな労力がかかり、リスクも大きい。</li> <li>・コストが高く、且つ外部流出する。</li> <li>・今後の保守・運用体制についても不安。</li> </ul>
ホスト機リプレース案	◎	◎	△	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なるハード入れ替えイメージ。</li> <li>・コスト面、財務ユーザーの負荷の面ではOKだが、システムが刷新されない為、NG。</li> </ul>
システム機能移行(コンバージョン)案	○	○	○	○	
自社開発案	×	×	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務ユーザーの負荷が大きく、現実的には本案の採用は不可能。</li> </ul>

## 5. システム機能移行(コンバージョン)案のメリット

### ● 企業文化の継承

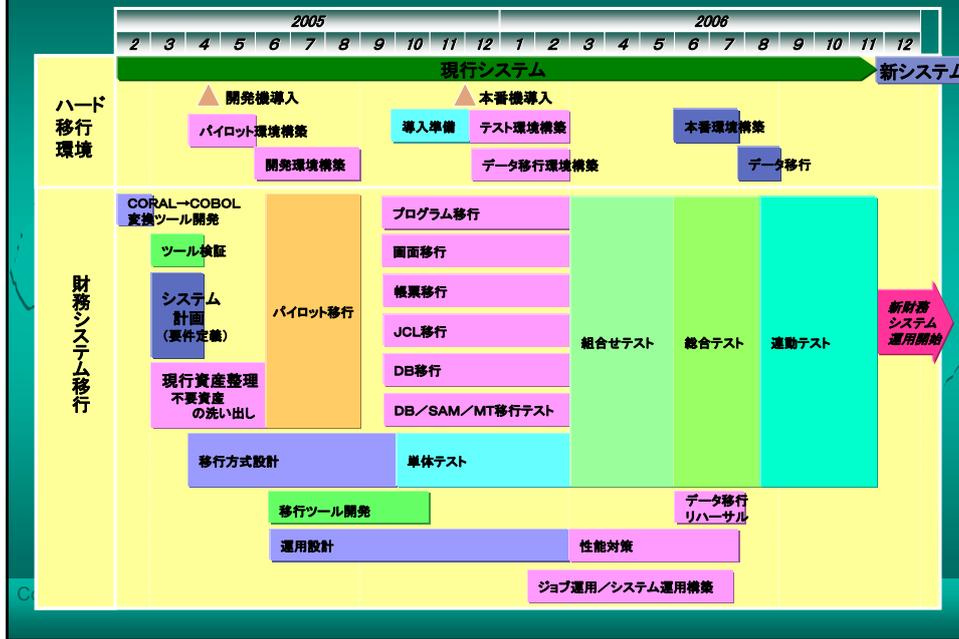
- 一部の新規開発部分を除いてコンバージョンした為、丸紅の文化(業務方式)や現場の工夫・ノウハウをそのまま踏襲することができ、社内の制度を大きく変更することなく新システムに切り替えることができる。

## 6. 事例プロジェクトの進め方

【プロジェクト体制】



## 6. 事例プロジェクトの進め方



## 6. 事例プロジェクトの進め方

### 【プロジェクト体制と役割】

#	工程	作業内容	丸紅	MJS	日立
1	システム計画 ・要件定義	・移行方針の策定 ・移行業務範囲の確定 ・移行後プログラム保守方式の策定	◎	△	○
2	移行対象資産整理	・移行対象資産／不要資産の確定	◎	○	○
3	移行方式設計	・現行PGM／DB／画面／帳票／JCL仕様調査 ・移行方式設計 ・移行仕様書作成	☆	△	◎
4	移行ツール作成	・移行ツールカスタマイズ・作成			◎
5	CORAL →COBOL変換	・ホスト環境準備 ・変換プログラム／JCL準備 ・CORAL→COBOL変換作業		◎	△ ◎ ◎
6	パイロット移行	・パイロット移行環境構築 ・パイロット移行／テスト ・テストデータ準備 ・テスト結果検証	☆	◎	△ ◎
7	本移行	・DBIOサブルーチン作成 ・PGM／DB定義／画面／帳票／JCL移行 ・単体テスト ・テストデータ準備 ・テスト結果検証 ・移行後リソースのSEWBへの登録 ・SEWB操作教育	☆	◎	△ ◎

## 6. 事例プロジェクトの進め方

#	工程	作業内容	丸紅	MJS	日立
8	組合せテスト/ 総合テスト	・テストデータ/検証用データ準備 ・ジョブネットの作成 ・ジョブの実行、OUTPUTの確認 ・エントリ画面でのテストデータ入力/結果検証 ・性能対策 ・システム運用マニュアルの作成	☆	◎	
		・業務運用マニュアルの作成/修正 ・エンドユーザへの教育	◎	○	
		・テスト期間中の技術支援(製品問合せ対応) ・性能対策支援(データ取得・分析)			◎
9	データ移行	・DBデータ/SAMデータ/MTデータ移行作業 ・移行結果の検証		◎	
10	本番環境構築	・本番環境の構築 ・各クライアントへのソフトウェアインストール・設定	☆	◎	△
11	本番フォロー	・本番稼働後の製品問合せ対応			◎
12	プロジェクト管理	・進捗会議開催 ・案件管理・仕様変更管理 ・外注管理・原価管理・品質管理、etc.	◎	○	○

Copyright (C) 2007 Marubeni Corporation. All rights reserved.

丸紅CORAL

## 6. 事例プロジェクトの進め方

### 【オープン化移行ソリューション概要】



## 6. 事例プロジェクトの進め方

### ● 財務基幹システム: 移行対象(開発)規模

- プログラム : 2,978 [オンライン881、バッチ2,097]  
※追加開発プログラム含む。
- PC系プログラム : 3 [サブシステム単位]
- サブルーチン : 743
- 丸紅ユーティリティ : 30 [移行13、新規17]
- 画面 : 868
- DB : 279 [TBL(セグメント)493]
- 帳票 : 555  
[オンライン69(内、専用帳票5)、バッチ375、ZPG111]
- JCL : 3,420 [東京1,819、大阪1,601]
- SAMデータ : 3,515 [東京2,005、大阪1,510]

## 7. 新システムの機能高度化

### 【本プロジェクト再構築対象】



## 7. 新システムの機能高度化

### ● 再構築による機能改善点

- 財務基幹システムと資金管理システムとの連携による、資金繰り精度の向上と業務効率化
- 営業部隊との連携による業務効率化
- FAXシステムのリプレイス、受取手形スキャニングシステムの導入、ファイリングシステムの適用業務追加による業務効率化
- クラスタ構成による可用性向上
- セキュリティ強化
- メール連携機能、ファイル添付機能の実装
- Webインターフェースによる開放

## 8. コンバージョンの副次的効果

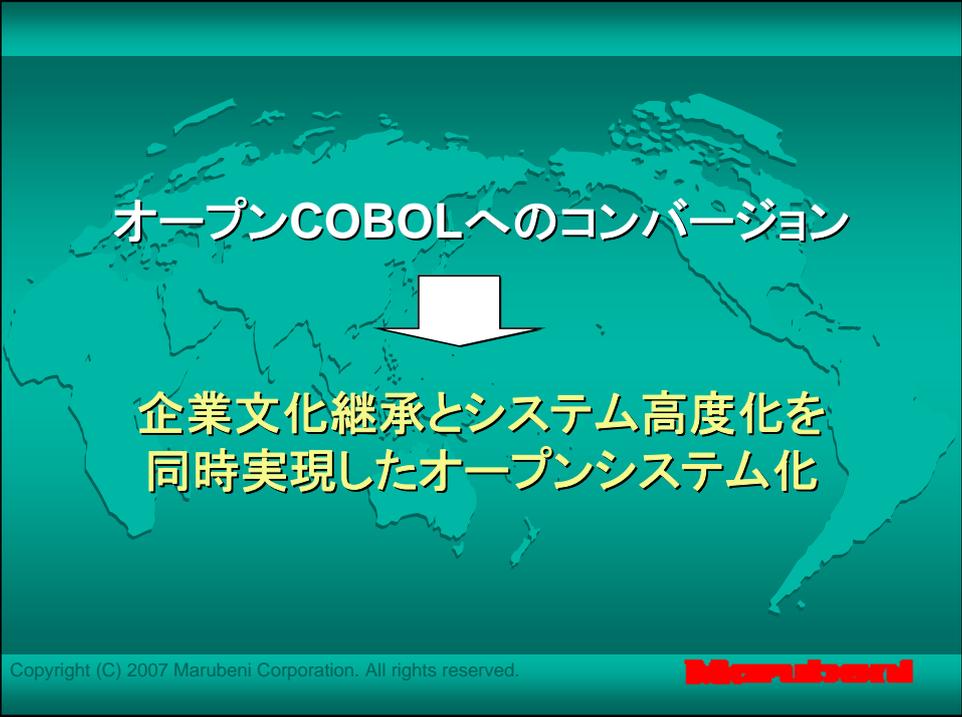
- 財務ユーザーの負荷軽減
- エンドユーザーの負荷軽減
- 業務ノウハウの蓄積
- プロジェクト管理の自由度向上

## 9. 新システムで得た果実

- ・ CORAL言語からCOBOL言語に変更され、維持・管理が柔軟になった。
- ・ ランニング(保守・運用)コストの削減
- ・ 機能面での充実
- 内部統制への対応

## 10. コンバージョンを行なうに当たって

- 資産整理と見直しを行なうこと
- 移行計画を充分吟味すること
- テストは地道に時間をかけて行なうこと
- 業務知識を継承できる方策を講じること



オープンCOBOLへのコンバージョン



企業文化継承とシステム高度化を  
同時実現したオープンシステム化

Copyright (C) 2007 Marubeni Corporation. All rights reserved.

**Marubeni**



地球のあらゆる生命や環境に○をつけたい

**Marubeni**

Copyright (C) 2007 Marubeni Corporation. All rights reserved.